

JA みねのぶ



コープさっぽろ「お米を知る」田植え体験（5月27日）

■発行日/平成30年7月1日/No.1395号

■発行/峰延農業協同組合

〒079-0192 美唄市字峰延37番地

Tel 0126(67)2111 Fax 0126(67)2793

ホームページアドレス <http://www.ja-minenobu.or.jp/>

■編集/総務課 ■印刷/空知印刷株式会社



今年も花プランター、完成しました！

6月7日、JA女性部（部長吉村俊子）が花プランターを作りJAの出入口等に設置しました。女性部はプランター作りを毎年実施していて、色とりどりの花を植えたプランターをJA建物出入口に設置し美しい景観を創出、峰延地域の景観美化に貢献しています。

6月7日は吉村部長以下6人の部員の皆さんが営農事務所前に集合、赤や黄、青等の配色を考えな

J A 女性部「花いっぱい運動」で 花プランター作り設置

がら丁寧にプランターに植え込み作業を行いました。設置場所は営農事務所出入口、営農資材店舗出入口、JAみねのぶ店店頭に各2基、本部事務所出入口に1基、ホクレン峰延給油所には昨年の2基から4基に増やし合計11基を設置しました。JAにお越しの節は是非ご覧下さい。

女性部の皆さん、ありがとうございました。

女性部の皆さん、ありがとうございます

第1回監事監査終わる

本年度の第1回目の監事監査が
4月末日を基準日として6月13日
から3日間の日程で浅香代表監事
以下3名の監事により執行されま
した。

監事監査の実施は一事業年度において四半期毎に年間4回が計画されていて、今回は本事業年度で

最初の監査となります。総会で議決された本年度の事業計画に対し、四半期毎に本年度の計画並びに前年度実績と対比し事業の進捗状況を確認し合わせて会計処理の適正等も監査が行われます。

最終日に、浅香代表監事から常勤理事、幹部職員に対し監査講評が行われました。

一報德一

貧富の隔たりは心得一つ

1. 平成30年度クミカン取引に係

第5回(6月)定例理事会の

開催について

持続可能な北海道農業の確立 に向けた組織討議について

第5回（6月）定例理事会の 開催について

◆協議事項◆

3. 2. 1. 平成30年度長期共済（一斉）
推進要綱の設定について
諸規程の一部改正について
ディスクロージャー誌の作成

第4回(5月)定例理事会の開催について



新酒発表会(6月1日 平安閣)で
挨拶を述べる森川組合長

JA創立100周年を機に始めた地元産の酒米を原料とした酒造りで、今年で製造4年目となります。「一圓融合」は酒造好適米「きたしづく」を原料とし、小林酒造株式会社(栗山町)で醸造したアルコール度数16%の純米大吟醸です。

JAの日本酒「一圓融合」の今年の新酒が出来上がり、関係機関の皆さまを招待し新酒発表会を開催しました。

「一圓融合」 今年の新酒発表会を開催

新酒発表会では、森川組合長が出来上がった酒のお披露目の参加について感謝の挨拶を述べました。

続いて原料米「きたしづく」を生産した浅香代表監事から本年の酒米の出来栄えについて、醸造した小林酒造の小林専務からこの酒の醸造の経緯や自社の酒造りへの思いが述べられました。

会場では昨年造られた酒とこの度出来上がった酒がテーブルに並べられ「飲み比べ」が行われました。昨年の酒は「まろやか」、今年の酒は「淡麗で口当たりが良い」「飲みやすい」と皆さまから好評でした。

「一圓融合」は、本年も200本製造し、当JA生活店舗のほか一部のコーポレートサッポロ点にて720ml入り1本2,500円で販売しています。

米・麦・大豆の 出荷契約終える

今年収穫される米・大豆等と来年収穫する小麦の出荷契約推進がJA組合長が推進本部長となり、男子職員がそれぞれ担当の組合員宅を訪問し説明を行い契約が行われました。

森川組合長が推進本部長となり、男子職員がそれぞれ担当の組合員宅を訪問し説明を行い契約が行われました。

れました。

訪問先の組合員の皆さまには温床の後片付けや水稻苗の補植作業等を中断しての対応や早朝、夕方にも対応いただきましたことを厚く感謝申し上げます。今後は一俵でも多く出荷いただきますようお願いいたします。

小林篤一翁顕彰公園 雑草取り行う

6月15日、小林篤一翁顕彰公園内の雑草取りを行いました。雑草取りを行つたのは、当JAの役員OBで構成する協栄会の皆さんで、毎年6月と9月の2回行つています。

協栄会の皆さん7人と森川組合長、伊藤専務理事、安達常務理事、職員1人に応援の美助つ人俱楽部(代表 前川隆)の皆さん5人が集まり総勢16人で午前8時から雑草取りを開始し50分ほどで作業を終えました。

前日まで雨天と曇天が続きたっぷりと水分を含んだ地面での作業となりました。

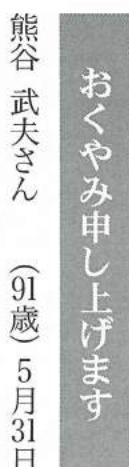
役員OBの皆さんは久々に顔を合わせてお互いに近況などを話し合いました。

ながら作業に励んでいました。作業を終えて、工藤勝善会長は当日

のお礼と秋にも雑草取りをお願いしたいと述べていました。



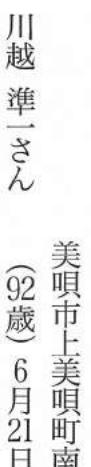
おこやみ申し上げます
雑草取りを終えて



熊谷 武夫さん (91歳) 5月31日



大野 進さん (85歳) 6月1日



川越 準一さん (92歳) 6月21日



佐久間 秀雄さん (85歳) 6月22日



美唄市豊葦町1区 美唄市光珠内町3区

一食育一

**コープさつぼろ
「お米を知る」田植え体験
親子で田植え**



親子で田植え

5月27日、コープさつぼろ組合員活動部の「お米シリーズ第1弾」田植え体験が美唄市峰延町峰権三区の圃場で行われました。28名のコープさつぼろ組合員の親子が参加し、JA青年部、女性部とNPO法人Efy（天使大学）のJA担当職員から「今日植える」とさんの応援を得て行われました。



バケツ稻を自宅に持ち帰ります

品種は「ゆめぴりか」です。苗がこれから順調に生育するために植える深さが大切なので、浅過ぎず深過ぎず、田んぼのコロで付けた印の土が盛り上がったところに1株ずつ丁寧に植えて下さい。」等と説明されました。

子供たちは裸足になり恐る恐る水田に入り土のぬるつとした感触と泥が吸い付き歩きづらいことに戸惑っていました。転ばないようバランスをとりながらも、時間とともに泥だらけになつて慎重に田植え作業を行いました。青年部



子供たちは“どじょう”に興味津々

員とJA職員は苗配り等でサポートし予定した面積の田植えは40分ほどで終了しました。田植え終了後は足などについた泥を洗い落とし、自宅に持ち帰り稻の栽培ができるバケツ稻に挑戦。JAから一家族に一つボリバケツが配られ、予め入れてある泥に苗を3本ほど植えました。また、JA担当職員から当JAが取り組む「香りの畦みちハーブ米」と「土生米（どじょうまい）」について説明がありました。用意したどじょうに子供たちは興味津々、希望



昼食は峰延産のハーブ米とアスパラの“おにぎらず”

昼食は、NPO法人Efyが「おにぎらず」作りを教え、中身は峰延で採れたアスパラやハーブ米等の材料を使ったオリジナルの「おにぎらず」を親子で楽しく作り食べていました。

今回植えた稻は、9月に稻刈り作業体験、10月に脱穀作業が予定されています。

者は持ち帰りができると告げるとバケツ稻のバケツにどじょうを放流し「土生米を作る！」という子供もいました。

峰千加（ほうせんか）が 加工用トマトの試験栽培に挑戦



空知農業改良普及センターが指導

峰千加（ほうせんか）は、今年度の加工用品を作るため、空知農業改良普及センターの指導の元、加工用トマトの栽培に挑戦しています。苗立てについては、峰千加役員の高橋多喜子さん（豊葦）が行い、峰千加の作付メンバーに有料で提供しています。

品種は、「すずこま」という加熱加工に適した品種で、定植後は通常のトマトとは違い、無支柱栽培や脇芽を取らないひと味変わった栽培方法になります。



「すずこま」の品種特性は、肉厚で赤みが強く果実中の水分含有が少ないため加熱しても煮崩れや色味が非常によく、加工や調理に非常に向いた品種です。

また、空知農業改良普及センターから品種比較試験栽培の依頼があり、峰千加自らのスキルアップのため、「すずこま」「なつのしゅん」「リコボーレ」の3品種を試験栽培することにしました。試験栽培を行う圃場は会長の荒井智美さん（光珠内）の圃場で、5月28日に空知農業改良普及センターの方々と峰千加会員11名で試験栽



トマトの試験栽培にチャレンジの峰千加の皆さん



苗の定植

培対象3品種の定植と加工用トマトの現地研修会が開催されました。今後、数回に渡り試験圃場にて現地研修会を開催する予定です。

本年度の長期共済一齊推進は、6月18日（月）から5日間の日程で実施されました。

例年通りJA職員とJA共済連の応援2名による2班体制で組合員宅に出向き推進を行いました。また、今回の一齊推進に先立つて、5月16日にJA共済連職員が講師となり推進に当たる職員を集めて研修会が開催され、推進の必要性や推進のポイント等を研修しました。

今回の一齊推進では、仕組改定のあつた建物更生共済を中心に医療共済、コンバイン等にご加入いただき、保障額で18億5千万円の推進結果となりました。ご加入に対して厚くお礼申し上げますと共に各戸への訪問の際には農作業を中断してご対応いただき感謝を申し上げます。

今後は推進期間中にあいにく不在でお会いできなかつた方を含め再度訪問いたしますので宜しくお願いいたします。

J A 共済一齊推進終わる

ハスカップ狩り始まる

本年のハスカップ狩りは、昨年と同じ6月25日（月）から7戸の農園で始まりました。

農協には2週間前から開園日の問合せの電話が相次いでいました。

早朝から大勢のハスカップファンの皆さまが各農園を訪れ、熱心に実を摘んでいました。

取材した高橋農園ではハスカップ畠側に用意された16台可能な駐車場は常に満車でした。

『ハスカップ狩り』

・期間：6月25日から約3週間



高橋農園(6月25日)

（ただし、ハスカップの実が無くなり次第終了します。）

・開園時間：7時～17時

・料金：入園無料

・摘み取った実は全量持ち帰り1kg 1100円

・摘み取り済みは、1kg 2000円

・問合せ先：JAみねのぶ販売企画課

（☎ 0126-67-2115）

J A 全国監査機構の監査受けける

J A全国監査機構の一般監査が実施されました。

J A全国監査機構の監査は全JAに対し毎年実施されていて、当JAは昨年6月末に受けています。監査機構の4人の監査士により、平成29年度決算の検証、各部門の内部統制について監査が行われました。

最終日に、常勤理事、監事、幹部職員に対して監査結果の概要報告が行われました。

J A青年部の創立70周年記念事業で看板設置

A青年部が記念事業で峰延をPR

する看板を作製、設置工事が6月21日に竣工しました。

看板のデザインは青年部の盟友から募集し、看板2面に各1人ずつのデザインを採用し、岩見沢向きの面（握手とハート）は小川浩之さん、美唄向きの面（茶碗と野菜）は荒井翔悟さんがデザインしました。

設置場所は国道12号沿いで、岩見沢から来て峰延市街の入口で手押しの交通信号機付近です。（道々月形峰延線交差点手前）お通りの際是非ご覧下さい。



看板の全景



荒井翔悟さんがデザイン



小川浩之さんがデザイン

【連載】～続・今こそJA!～

【第2回】ごまかさず、商人と競争しない

ロッチデール原則の3番目に「目方や分量をごまかさない」、4番目に「市価で販売し、商人と競争しない」という内容があります。産業革命後のイギリスにおいて、商人は利潤の追求を優先し、街中に粗悪品、有害食品、量目不良品が溢っていました。

28人の織物職人で設立したロッチデール公正先駆者組合は、1人1ポンドを拠出し、28ポンドの出資金をもって生活物資を共同で購入しました。当初は小麦粉、バター、砂糖、オートミールの4品目だけでしたが、4品ともに良品質で量目も確かなものであると評判になりました。

これに対して商人は商品の品質を落としたり、その量目をごまかしたりして価格を下げて対抗してきましたが、ロッチデール公正先駆者組合は決してこうした価格競争にのることはありませんでした。

同じ品質の商品価格は同一であるという「一物一価の法則」によると、価格での競争になつたらその品質を下げない限り競争相手には勝てません。こうして果てしない競争が続いていくことをロッチデール公正先駆者組合は知っていたのです。

価格で競争しないかわりに良質で確かな量目の商品を適正な価格(市価)で提供する。これがロッチデール公正先駆者組合の精神でした。そして設立から16年後、ロッチデール公正先駆者組合の出資者は3,450人にまで拡大していました。

現在、自由競争を尊重する風潮が強くなっていますが、本当にそうなのでしょうか? 競争しないことの意味を改めて考えてみると必要かもしれません。



JAやJA関連団体へ100%就職 大学・短大・専門学校・高校生大歓迎 第1回学生募集 JAカレッジ

(平成29年度実績)

- 60名 ●1カ年、全寮制 ●満24歳未満(平成30年4月1日現在)
- 大学卒及び見込、短大・専門学校卒及び見込、高校卒及び見込
- 試験日:9月8日・9日 ●願書受付:7月2日~8月13日消印有効 ●学校見学もできます

男女共学

J A、JA関連団体へ就職

お問い合わせ
資料請求

JAグループ職員養成校

JA カレッジ

一般財団法人 北海道農業協同組合学校
〒069-0834 江別市文京台東町43-1
☎0120-918-417 JAカレッジ 検索

農作業事故に注意しましょう!

北海道農作業安全運動推進本部

北海道農作業安全運動推進本部が北海道内の農作業事故調査結果を取りまとめた平成28年度農作業事故報告書(平成29年8月発行)から次の傾向が判明しました。農作業事故防止のために、余裕をもった作業を心掛けて身の回りの安全確認を行い、農作業事故を起こさないように注意しましょう。

1. 死亡事故は60歳以上が最多

過去10年間の農作業死亡事故173件のうち、60歳以上が116件(67.1%)で最も多く、次いで50歳代が32件(18.5%)、40歳代が12件(6.9%)となっています。

2. 負傷事故は60歳以上が最多

過去10年間の農作業負傷事故24,261件のうち、60歳以上が8,296件(34.2%)で最も多く、次いで50歳代が5,980件(24.6%)となっています。

3. 女性は50歳代が最多

農作業事故に占める女性の割合は、過去10年間の合計では、50歳代(40.0%)、60歳以上(34.8%)、40歳代(34.1%)の順となっています。

4. 死亡事故は夏から秋の収穫期にかけて多発

過去10年間の合計では、10月が25件(14.5%)で最も多く、次いで9月が23件(13.3%)、5月が22件(12.7%)、7月が21件(12.1%)、8月が20件(11.6%)の順となっています。

5. 負傷事故は秋の収穫期と春に多発

過去10年間の合計では、5月が2,686件(11.1%)で最も多く、10月が2,676件(11.0%)、次いで9月が2,628件(10.8%)となっています。

6. 死亡事故発生場所は、圃場、敷地内と道路で65.8%

過去10年間の死亡事故173件のうち、水田・畑・牧草地などの圃場が59件(34.0%)、敷地内が28件(16.2%)、農道・公道・道路取付口などの道路が27件(15.6%)で全体の65.8%を占めています。

7. 負傷事故発生場所は、畜舎、圃場と敷地内で78.0%

過去10年間の合計では、負傷事故24,661件のうち畜舎が9,036件(37.2%)で最も多く、次いで圃場(水田・畑・牧草地)が5,267件(21.7%)、敷地内が4,624件(19.1%)となっています。

8. 死亡事故の発生時間帯は、午後2時～午後4時台と午前10時～午前12時台

過去10年間の死亡事故173件のうち、14時が19件(11.0%)、15時が17件(9.8%)で最多発生時間となっていて、次いで10時の15件(8.7%)、12時の14件(8.1%)となっています。

9. 負傷事故の発生時間帯は、午前10時・11時台と午後3時・4時台に多発

過去10年の負傷事故24,261件のうち、10時が2,874件(11.8%)で最多発生時間、次いで11時の2,468件(10.2%)、16時の2,223件(9.2%)、15時の2,091件(8.6%)となっています。

10. 農作業事故の大半は農業機械事故

過去10年間の農作業事故を原因別にみると農機事故が大半を占め、10年間の死亡事故173件のうち農機事故は131件(75.7%)、負傷事故24,261件のうち農機事故が7,111件(29.3%)となっています。

11. 死亡事故はトラクターが最多

過去10年間の死亡事故173件のうち52件(30.1%)がトラクター事故となっています。トラクターに次いでトラック、ハーベスター類、高所転落、ショベル・リフト類の順となっています。

12. 負傷事故は家畜(牛・馬・豚)が最多

過去10年間の負傷事故24,261件のうち、牛・馬などによる家畜の事故が8,315件(34.3%)で最も多く、次いで人の転倒事故が2,412件(9.9%)、高所転落が2,067件(8.5%)となっています。

13. トラクター事故の原因別状況で死亡事故は転倒・転落が最多

トラクターによる死亡事故の過去10年間の合計は52件で、そのうち原因が転倒・転落によるものが29件で全体の55.8%を占めています。

14. トラクター事故の原因別状況で負傷事故は作業機の整備・着脱時が最多

トラクターによる負傷事故の過去10年間の合計は1,698件で、そのうち原因ではトラクター作業機の整備・着脱時などに物を落とす・物に挟むが528件(31.1%)、次いで乗降時などのトラクターからの落下が436件(25.7%)となっています。

15. 農業就業人口からみた農作業事故者数は1,000人当たり22.9人

「2015年農林業センサス」(農林水産省)による道内の農業就業人口は96,557人で、5年前の2011年センサスの111,324人より14,767人減少しています。平成28年度の農業就業人口1,000人当たりの農作業事故者数は22.9人となっています。

JAグループ通信

No.24

JAグループの連合会・中央会の活動内容を紹介します。
 JA北海道大会決議事項の実践やその時々のトピックスなど、
 組合員の皆様に定期的にお伝えします。
 各団体の詳しい取り組み内容はWEBサイトをご覧ください。

JA北海道中央会

JA全中は政策決定のプロセス変化を踏まえ、夏前に政策確立に係る取組みを強化する方向を示し、本年は6月7日に与党政策責任者に対して全国段階の政策提案を実施しました。JAグループ北海道では全国大会に先立ち、道内選出与党国會議員に対してJA北海道大会決議の着実な実践を通じた自己改革の進展における課題となる准組合員の事業利用の維持、会計監査人監査への移行に伴う負担への配慮、中央会の連合会移行に伴う税制に関する所要措置など、農協組織基盤対策に関する意見交換を通じ、JA・組合員の負担増につながらない仕組みの構築について政策提案を実施しました。

JA北海道信連

JAバンク北海道は、認知度向上と地域活性化の観点から、6月12日のファイターズ公式戦を、JAバンク北海道スペシャルナイターとして開催し、来場者にファイターズとコラボしたオリジナルクリアファイルを配布しました。JAバンクイメージキャラクターの松下奈緒さんが始球式を務め、ちよりスがYMCADANCEを踊るなど、試合を大いに盛り上げました。



JA共済連北海道

JA共済連は、北海道交通安全協会に対し、飲酒運転撲滅うちわ5万本を始め、交通安全旗・交通安全のぼりを寄贈しました。「全道小・中学生交通安全ポスターコンクール」2017年度入賞作品が掲載されたうちわは、全道各地の夏祭りやビアガーデンなどのイベント会場で配布される予定です。

このような活動で地域住民の交通安全意識の高揚を図り、安心と安全の地域づくりに貢献しています。



ホクレン

**HOKUREN
Seeds
PROJECT**



ホクレンは、社会・地域貢献活動「シーズプロジェクト」の一環として、児童養護施設の子どもたちに北海道日本ハムファイターズの試合を通じて元気と勇気を感じ、地元・北海道への愛着を持つもおうと、児童養護施設8施設に札幌ドームでの観戦チケット計200枚と限定ユニホームをプレゼントしました。この取り組みは、2013年から継続して実施しており、今年で6年目になります。



組合員ならびに地域住民の皆様の生命と健康を守るために、本会事業の積極的な啓蒙推進を図ることを目的として、広報誌「すまいる」を発行しております。年3回発行しております。様々な医療・健康情報を発信しております。

ホームページにもバックナンバーを掲載しておりますので、是非ご一読ください。

JA北海道厚生連



老後の備えは 農業者年金で安心!

女性農業者の皆さんへ あなた自身の年金を!

老後の備えは万全ですか?

現在65歳の日本人の平均余命は、
男性が19年(84歳)、
女性が24年(89歳)です。
女性の老後は男性以上に長い道のりです。

女性農業者の長い老後を
しっかりサポートします

家族経営協定を結べば
保険料の国庫補助も
受けられます。

認定農業者で青色申告をしている方と
家族経営協定を結ぶ配偶者も
保険料の国庫補助が受けられます。

女性の農業経営への
参画をしっかり
応援します!

農業者の老後の生活の収入は、
国民年金+農業者年金が基本です!

国民年金の支給額は夫婦お二人で
月額最高約13万円です。
一方、高齢農家の家計費は夫婦お二人で
23~24万円が必要となるデータがあります。
→月額約10万円不足!

国民年金の不足分を
しっかりカバーします

農業者年金の加入には
農地の権利名義は
要りません。

60歳未満の国民年金第1号被保険者
(納付免除者を除く) であって
年間60日以上農業に従事している方は
誰でも加入できます。

女性農業者の
老後の安心は
自分で確保!

女性は男性より +5年長生き 自分自身の年金を準備しましょう

一般的に女性は男性より長寿です。年金が重要なことは男性も女性も同じですが、女性はより長い老後に備えて、自分自身の年金を準備することが重要です。

